

ガイア共通KPI 実績のご報告

比較可能な共通 KPI とは～背景と解説～

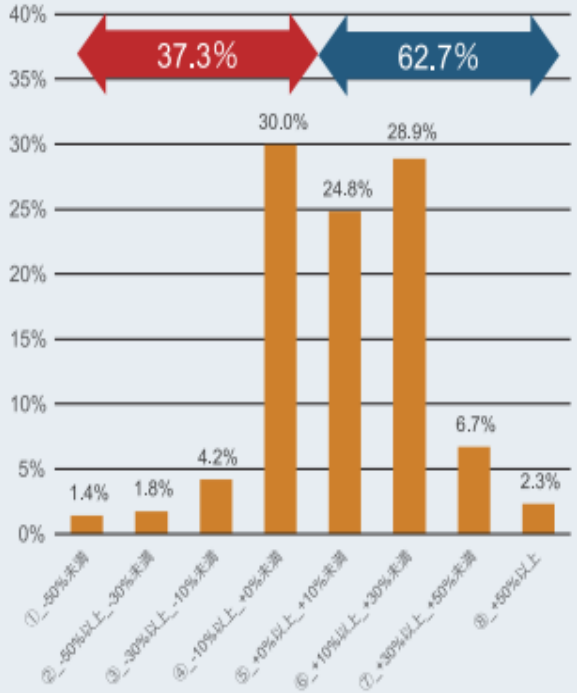
銀行、証券会社、独立系運用会社など、投資信託の販売会社がこぞって「共通KPI」というデータを公表しており、新聞紙面でご覧になった方もいらっしゃるかと思います。(KPI=Key Performance Indicator = 重要業績評価指標の略) これは金融庁が「貯蓄から投資へ」というスローガンの旗印の下に進めて来た、個人投資家の長期的な利益を守る為の取り組みの一つで、「長期的にリスクや手数料等に見合ったリターンがどの程度生じているかを見る化するため」に毎年3月末を基準とした3つの「共通KPI」の公表を、投資信託の販売会社に求めたものとなります。ただし推奨であって義務ではありません。これまでも各金融機関が独自に様々なKPIを公表してきましたが、取り組みもまちまちであり、投資家にとって比較が難しいものでした。今後は良質な金融商品・サービスを提供する金融機関を選ぶ際に、投資家がより参考にし易い指標として「共通KPI」が毎年公表されていく事になります。今回ガイアでもKPIの一つである「運用損益別顧客比率」を算出しましたので、ご報告いたします。

「運用損益別顧客比率」とは

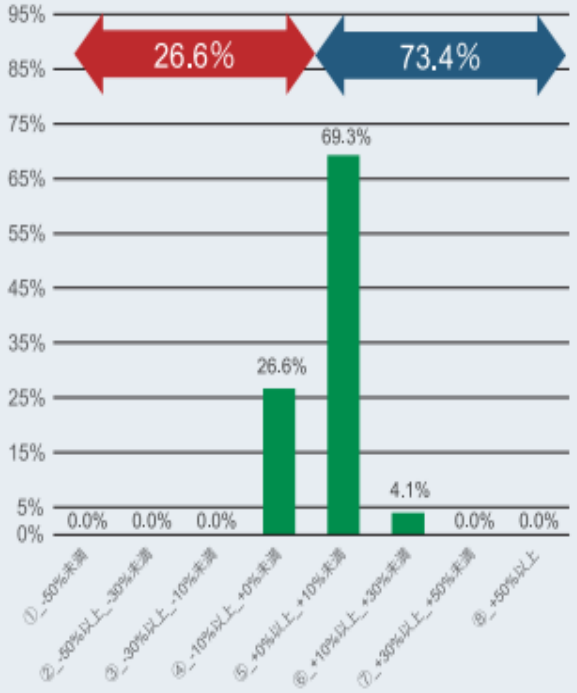
投資信託を保有している顧客について、基準日時点の保有投資信託に係る購入時以降の累積の運用損益(手数料控除後)を算出し、運用損益別に顧客比率を示した指標である。この指標により、個々の顧客が保有している投資信託について、購入時以降どれくらいのリターンが生じているか見ることができる。(※金融庁HP「投資信託の販売会社における比較可能な共通KPIについて」より)

ガイアの実績

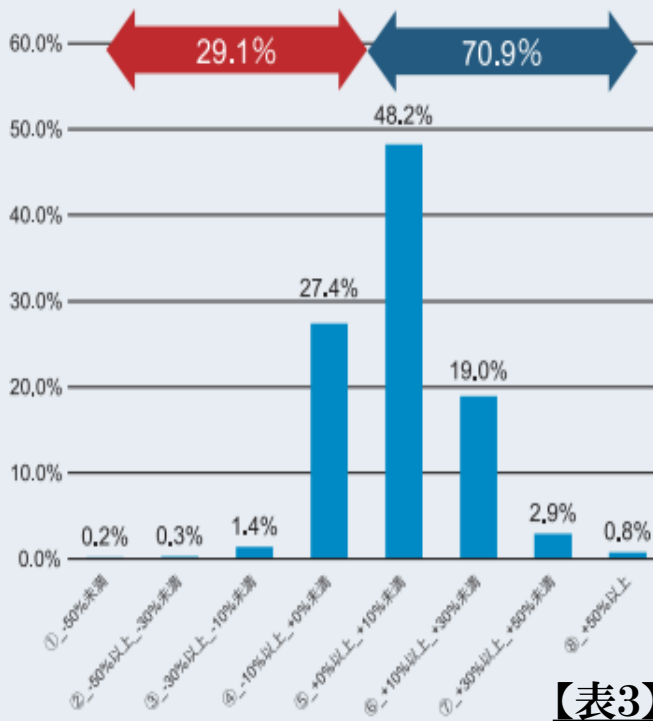
運用損益別顧客比率 (投資信託) 【表1】



運用損益別顧客比率 (GMA) 【表2】



運用損益別顧客比率（投資信託＋GMA）



【表3】

2018年3月末時点での運用損益別顧客比率のグラフを3つ出しました。プラスの比率でいきますと「投資信託のみ」が62.7%、「GMAのみ」が73.4%、「投資信託＋GMA」が70.9%になります。ガイアは約60%（713/1170）のお客様にGMAをお持ちいただいております、GMA導入にあたりコア資産の投資信託はGMAに切り替えておりますので、最も実態を反映している数字は「投資信託＋GMA」の数字だと思います。表3をご覧くださいと、77%がマイナス10%～プラス30%の間に入っており、極端のマイナスやプラスがないのは、お客様のリスク許容度に見合った、十分に分散されたポートフォリオをご提案している結果だと思います。また、この表は顧客別ですので1170名のお客様のうち498名が2016年以降にご投資いただいた（参考：16年：158名、17年：294名、18年3月まで：46名）直近3年以内のお客様になりますので0～10%が一番のボリュームゾーンになっております。

口座開設年別の損益状況の分布



【表4】

この表は楽天証券に口座を開設した年度別の損益比率を表したものになります。2017年、2018年に口座開設をしたお客様は、まだ大半の方がプラスのリターンを得ていませんが、2016年以前に口座開設したお客様をみると約80%の方がプラスのリターンになっております。一方、4～5年投資を継続してまだプラスになっていないお客様も約20%いらっしゃり、これは債券ファンドを多く組み入れたのが要因と把握しております。定期面談時にもう一度、投資期間、リスク許容度の確認をさせていただき、ポートフォリオの見直しを行って参りたいと考えております。

■ラップサービス「GMA」について

GMA (GAIA Monitored Account) とは、ガイアが助言するファンドが組み入れられた、楽天証券が開発・運用を行うラップサービスです。海外でも名高い実力派ファンドを組成しながらも、トータルコストは年率1.8%と他のラップサービスよりも低コストとなっています。ガイアはGMAを通じて、コミッション型（手数料受取型）ではなくフィー型（資産残高連動型）ビジネスを実現しており、今後も真の顧客本位のサービスを追求し続けます。

■GAIA株式会社について

金融商品仲介業者 関東財務局長(金仲)第 235 号
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 2934 号
 加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会

GAIA

お客様の夢を実現する
 二世代プライベートfp